

令和元年度 事業報告概要

(高齢者福祉事業)

- | | |
|--------------------------|-----|
| 1. 特別養護老人ホームおおすか苑（従来型） | P 1 |
| 2. 特別養護老人ホームおおすか苑（ユニット型） | P 2 |
| 3. おおすか苑ショートステイ | P 3 |
| 4. おおすか苑デイサービスほほえみ | P 4 |
| 5. おおすか苑居宅介護支援事業 | P 5 |
| 6. 掛川市南部大須賀地域包括支援センター | P 6 |
| 7. 山崎デイサービスセンター | P 7 |
| 8. 小規模多機能型居宅介護よりみち | P 8 |
| 9. グループホーム野楽里 | P 9 |

(児童福祉事業)

- | | |
|------------|------|
| 1. よこすか保育園 | P 10 |
| 2. おおぶち保育園 | P 11 |

令和元年度

特別養護老人ホームおおすか苑（従来型）事業報告

1. 入居者の状況

- (1) 利用状況：利用者数は延べ17,802名であり、昨年度の延べ18,033名に比較し、231名減少した。稼働率は、昨年度の98.8%に対し、今年度は、97.3%であった。
- (2) 入・退所状況：退所17名、入所16名の計33名の異動があった。退所理由は、死亡が12名、医療施設への転院が5名。入所経路は、在宅から5名、老健施設から5名、他の介護保険施設から6名。

2. 入居者の健康管理

令和元年度に入院治療を受けた者は18人。総入院日数は387日であった。昨年度と比べると、入院者数が6名増加、総入院数は126日増加した。

「令和2年3月31日現在の重度の医療的介護」の状況は次のとおり。

人数	状況の内訳（重複有）						寝たきり人数
	入院中	点滴	酸素吸入	カテーテル	経管栄養	吸引	
11	1	0	0	1	5	4	4

3. 優先入所

令和2年3月31日現在の入所申込者は56名で、昨年と比較し2名の減少となっている。

保険者別の状況は以下のとおりである。

保険者	掛川市	菊川市	袋井市	磐田市	御前崎市	島田市	富士市	合計
待機者数	47	4	1	1	2	0	1	56

4. 防災活動

1) 防災訓練の実施状況

職員数の少ない夜間想定避難訓練を重点として毎月の訓練を実施した。

2) 自主点検の実施

「火気取締責任者の担当区域及び業務分担表」に基づき防災点検を毎月実施した。

5. 職員研修・会議

(1) 内部研修

専門職としてのケアを行う上での倫理の確立、介護サービスの質の向上、多職種連携を目指し、内部研修を年間9回 延べ136名の出席で開催した。

(2) 外部研修

計画的に研修参加を進め、施設内で報告や研修を行った。22件の研修に延25名の職員を派遣した。

6. 地域との交流

[ボランティアの受け入れ]

(1) ボランティア提供者

地域の小中学生の介護体験、地域の方々には草取りや清掃、また芸能慰問といったボランティア活動を提供していただいた。

(2) 定期来苑ボランティア

こでまりの会のシーツ交換、アンダンテのハーモニカ演奏の2団体の定期来苑があった。

令和元年度

特別養護老人ホームおおすか苑（ユニット型）事業報告

1. 利用状況

(1) 利用状況：利用者数は延べ10,793名であり、昨年度の延べ10,868名に比較し、75名減少した。稼働率は、昨年度99.1%に対し、今年度は98.3%であった。

(2) 入・退所状況：退所10名、入所10名の移動があった。退所理由は、死亡が8名、他の介護等施設への異動が2名。入所経路は、在宅から5名、老健施設から1名、他の介護保険施設から4名。

2. 入居者の健康管理

入院治療を受けた者は延べ8名。総入院日数は126日であった。昨年度と比べると、入院者数が5名増加、総入院日数は100日増加した。

「令和2年3月31日現在の重度の医療的介護」の状況は次のとおり。

人数	状況の内訳（重複有）						寝たきり人数
	入院中	点滴	酸素吸入	カテーテル	経管栄養	吸引	
4	0	0	0	0	2	1	4

3. 優先入所

令和2年3月31日現在の入所申込者は34名で、昨年と比較し5名の増加となっている。

保険者別の状況は以下のとおりである。

保険者	掛川市	菊川市	御前崎市	島田市	合計
待機者数	31	2	1	0	34

4. 防災活動

(1) 防災訓練の実施状況

職員数の少ない夜間想定避難訓練を重点として毎月の訓練を実施した。

(2) 自主点検の実施

「火気取締責任者の担当区域及び業務分担表」に基づき防災点検を実施した。

5. 職員研修・会議

(1) 内部研修

専門職としてケアを行う上での倫理の確立、介護サービスの質の向上、多職種連携を目指し、内部研修を年間10回 延べ90名の出席で開催した。

(2) 外部研修

18件の研修に延べ21名の職員を派遣した。

6. 地域との交流

(1) ボランティア提供者

地域の小中高生の介護体験、地域の方々には草取りや清掃、また芸能慰問といったボランティア活動を提供していただいた。

(2) 定期来苑ボランティア

こでまりの会のシーツ交換、アンダンテのハーモニカ演奏の2団体の定期来苑があった。

令和元年度

ショートステイ事業報告書

1. 利用状況

利用者数は延べ4,513名。一日平均利用者数は12.3人であった。昨年度の一日平均利用者数は14.2名で1.9名の減少。

サービス利用終了者数が33名、サービス利用開始者数が58名であった。

2. 提供するサービス

(1) 日常生活上のお世話・健康管理

サービス計画に基づき、生活相談員・看護職員・介護職員で情報を共有し、介護サービスを提供した。帰宅時にお預かりした衣類などの返し忘れが目立った。預かり品の管理をきちんとしてほしい。

(2) 日中の活動

デイサービスと連携では、カラオケや演奏ボランティア等の参加する事ができている活動もあれば、機能訓練等の個別的な参加が難しい活動があった。日中、脳トレプリントやぬり絵プリントを用意して個人で楽しんでもらった。また、職員と複数の利用者で壁画づくりを行った。

(3) 定期的なケアの見直し

サービス計画に基づき、生活相談員・看護職員・介護職員で情報を共有し、介護サービスを提供した。利用者の日々の介護記録及び家族への利用中の様子報告書作成を行った。

3. 職員研修、会議

(1) 内部研修

6つの研修に、延べ6名参加した。

(2) 外部研修

3つの研修に延べ3名の職員を派遣した。

令和元年度

デイサービスほほえみ事業報告書

1. 利用状況

309日の稼働で、利用者数は延べ5,460名。一日平均利用者数は17.7名であった。昨年度の一日平均利用者数は17.1名で0.6名増加。

サービス利用終了者数が17名、サービス利用開始者数が13名であった。

2. 今年度の活動

(1) 定期的なケアの見直し

毎夕のミーティング、センター会議の機会を使い、担当者会議の内容やモニタリング・評価の結果を共有するようにした。情報を共有するとともに、より利用者の個性・好みに合わせた支援の提供を継続したい。

(2) グループ活動

計画に沿って提供できた。菜園活動ではジャガイモ、スイカ、南瓜、落花生の栽培を行い、利用者さんと一緒に調理をして共に食すという活動ができた。おおぶち保育園児との交流を1回行った。8月 夏祭り（ぶどう組〔5歳児〕）行事で交流をもち、利用者の笑顔と元気を引き出していただいた。

(3) 機能訓練、運動の機会の提供

全体で行う体操では、個々の身体状況に配慮し、支援を行いながら実施できた。体操の効果についても、説明しながら行い、利用者に意識して意欲的に取り組めるようリードした。

機能訓練は、計画に沿って実施できた。

3. 通所型サービスA（基準緩和型）への取り組み

基準緩和型の利用者は令和2年3月31日現在0名。通所型独自サービス（みなし）の利用者は5名利用されている。

4. 職員研修、会議

(1) 内部研修；4つの研修に、延べ24名参加した。

(2) 外部研修；7つの研修に延べ7名の職員を派遣した。

5. ボランティア

地域の小中高生の介護体験、地域の方々には趣味活動の講師、芸能慰問といったボランティア活動を提供していただいた。

令和元年度

おおすか苑居宅介護支援事業所事業報告

1. 居宅介護支援の利用状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日のケアプラン作成件数は延べ1,695件。昨年度と比較して100件の減であった。

2. 予防介護支援の利用状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日のケアプラン作成件数は延べ330件。昨年度の同時期と比較し116件の減であった。

3. 居宅介護支援異動状況

平成31年4月1日～令和2年3月31日の新規作成件数は33件でそのうち70%が地域包括支援センターからの紹介であった。又、終了件数は、50件で理由として多いのが入所、入院で全体の82%を占めていた。

4. 介護認定調査

平成31年4月1日～令和2年3月31日の認定調査件数は延べ21件。

5. 研修

【内部研修】14回開催し、延べ63名参加した。

【外部研修】13件の研修に、延べ24名の職員を派遣した。

6. 会議

・居宅介護支援会議 毎週水曜日開催

内容：「事例検討、諸制度の周知、苦情や要望の報告、新規・困難事例の報告、内部研修」毎週水曜日開催した。

7. 介護保険事業所連絡会（掛川市長寿推進課 主催）

内容「行政からの連絡事項、市指定介護保険事業所への集団指導」年4回出席した。

8. 掛川市介護支援専門員資質向上事例検討会

内容「市内介護支援専門員対象とした事例検討会」年4回 延べ13名出席した。

9. 介護支援専門員資質向上検討委員会

内容「包括と居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員で研修企画等」年4回出席した。

掛川市南部大須賀地域包括支援センター 事業報告

1	担当圏域	<p>掛川市 117,978人(昨年比+373人) (大須賀地区)</p> <p>人口 10,913人(昨年比-97人) 高齢者人口 3,554人(昨年比+27人) 高齢化率 32.57%(昨年比+0.57%)</p> <p style="text-align: right;">※H31.3現在/運営協議会資料</p>
2	職員体制	主任介護支援専門員・保健師に準ずる看護師・社会福祉士 各1名
3	取り組んだ事業内容	<p>【1】 総合相談支援業務</p> <p>① 実態把握の実施</p> <p>② 総合相談受付、対応数 ⇒1956件(昨年 2,324件)。 [来所 690件、電話 945件、訪問 321件(同行 49件)]</p> <p>【2】 権利擁護業務</p> <p>① 高齢者虐待の早期発見、早期介入/高齢者虐待の防止及び相談 ⇒ 権利擁護相談連絡票提出:1件 高齢者虐待対応:0件</p> <p>② 成年後見人制度の利用支援/成年後見人制度・権利擁護の周知及び利用支援</p> <p>③ 消費者被害等への相談支援</p> <p>【3】 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務</p> <p>① 包括的・継続的ケアマネジメント体制 ⇒ ケアマネジャーからの相談で、個別ケア会議を開催し、多職種でケース対応の検討をした。開催回数;3回</p> <p>② 介護支援専門員への個別支援</p> <p>【4】 第1号介護予防支援業務(介護予防ケアマネジメント)</p> <p>【5】 在宅医療・介護連携推進業務 ⇒ 住民の困りごとや在宅医療に対する思いを把握、住民や在宅医療、介護に関わる人々の認識を明らかにすることを目的に住民参加によるワークショップを小笠医師会、行政と協働で開催した。</p> <p>【6】 生活支援体制整備事業</p> <p>① 生活支援サービスの基盤整備</p> <p>② 制度改正の周知</p> <p>【7】 認知症施策推進業務</p> <p>① 認知症への理解を深める普及・啓発</p> <p>② 認知症高齢者の介護者、家族に対する支援</p> <p>③ 認知症疾患医療センターとの連携</p> <p>④ 認知症初期集中支援チームへの対応</p>

山崎デイサービスセンター 事業報告

1. 利用状況

258日の稼働で、利用者数は延べ3,607名。一日平均利用者数は16.0名であった。昨年度の一日平均利用者数は18.0名で2名減少。

サービス利用終了者数が5名、サービス利用開始者数が12名であった。

2. 今年度の事業内容

(1) 活動について

計画通りに行えた。1月に行った少人数でのお宮参りは大変好評であった。友人たちと外出する楽しみは、かなり意欲の向上になっていると感じられた。事業対象者が増え、製作物など利用者が主体で作品を完成させることも多くできた。

(2) 運動・体操・機能訓練について

運動・体操は、日課になってきているが、個々に合わせた運動は行えなかった。新年度の課題である。器具類も購入し、安全に使用できるようにしたい。運動器の機能向上訓練も、その日の状態にあった柔軟な訓練実施にしていきたい。

(3) 定期的なケアの見直し

検討の場としては、ミーティングの時間の活用は継続できた。伝達は、朝礼ノートなどを使用したり、照会などは、確認印をするなどの対応をした。

(4) 防災訓練

火災発生想定避難誘導訓練を2回、河川氾濫想定避難誘導訓練を1回実施した。

3. 職員研修、会議

(1) 内部研修；3つの研修に、延べ12名参加した。

(2) 外部研修；4つの研修に延べ4名の職員を派遣した。

4. ボランティア

地域の方々に、楽器演奏、芸能慰問といったボランティア活動を提供していただいた。定期的に来苑され、余暇活動として利用者も楽しみにしていた。

令和元年度 小規模多機能型居宅介護よりみち 事業報告

1. 事業目的

利用者が住み慣れた地域で生活を継続することが出来るよう、通い、訪問、宿泊サービスを柔軟に組み合わせて支援を行う。

2. 目標

「地域との関わりを持つことで利用者の生活支援につなげる」
「その人らしさを引き出し、やりがい、楽しみ、笑いある生活を支援する」

⇒△民生委員との情報共有、事業所独自のアセスメント表は未達成。

⇒○個別支援、サービス提供については、ほぼ計画通り実施

3. 今年度の事業内容

アセスメント、計画作成、サービス提供、モニタリング、計画の見直し、請求・給付管理までの一連の流れに沿った支援 ⇒○計画通り実施

4. 地域との連携 ⇒◎計画通り「運営推進会議」を実施、開催日・人数は次の通り。
5/16(2名)、7/18(13名)、9/19(12名)、11/21(12名)、1/16(12名)、3/19(10名)

5. 職員研修、会議⇒○ほぼ計画通り実施出来た

(1) 内部研修 ⇒○法定研修、安全運転研修、看取り介護研修実施

(2) 外部研修 ⇒○資質向上(掛川市主催)、感染症研修(西部保健所主催)、虐待防止(掛川市主催)、認知症(掛川市主催)に参加

(3) よりみち支援会議 ⇒○ほぼ計画通り実施(実施:5回)

(4) 防災訓練の実施(グループホームと合同)⇒○計画通り実施

6月、11月、12月、2月

11月は地域の方が参加、12月はスタッフが地域訓練に参加

【利用状況一覧】について

よりみちの登録定員:25名、通いの定員:1日15名、泊り:1日6名

4月の登録状況は10名(40%)と低かったが、徐々に利用者が増え、9月に登録数15名(60%)となった。その後増減があったが3月に14名まで回復。平成31年度の利用開始者は15名、利用終了者は12名であった。12月に収入ベースでマイナスの補正を行い、補正後の収入目標を何とか達成できた。

大東、菊川の居宅介護支援事業所や大須賀、大東の包括からの紹介、病院回復期病棟からの紹介件数が増えた。

令和元年度

認知症対応型共同生活介護（グループホーム）野楽里 事業報告

1. 目標

『「できる事」「やりたい事」の確認・再発見をし、生活を支えるケアの実現』
認知症疾患があっても穏やかに安定した生活を送れるように支援する。

⇒目標にそった取り組み。センター方式「暮らしの情報シート」見直し。個の「できる事」を職員間で共有。日々の変化は記録に残す意識は定着してきている。

2. 今年度の事業内容

(1) 生活支援

食事、入浴、ADLの維持、認知症の進行抑制や改善、身体機能の改善に向けて心身のリハビリ体操などを取り入れていく。

⇒○ほぼ計画通り、意識して取り組むことが出来た。

(2) アクティビティ活動 ⇒○ほぼ計画通り実施

毎月1回合同の遊びリレーションなどの活動に取り組むことが出来た。

(3) 定期的なケアの見直し ⇒○ほぼ計画通り実施。

(4) ケース検討会及びユニット会議 ⇒○ほぼ計画通り実施

・ケース会議…利用者の介護計画と実施状況を共有。

・3か月ごとの身体拘束適正化等検討委員会は東西ユニット合同で開催。

3. 地域との連携 ⇒○計画通り「運営推進会議」を実施。開催日・人数は次のとおり。

5/1(15名)、7/18(14名)、9/19(12名)、11/21(12名)、1/16(14名)、3/16(12名)

4. 自己評価・外部評価 ⇒○計画通り。令和元年11月30日実施、令和2年2月10日に市に提出。評価点と課題が明らかになった。

5. 職員研修、会議

(1) 接遇の向上⇒○実施。「馴染みの関係、丁寧な言葉遣い・丁寧なケアを築く」を目標に、身体拘束適正化等検討委員会でスピーチロックの振り返り実施。

(2) 内部研修（学習会）⇒○実施。法定研修（事故、虐待、感染症対策）。看取り研修⇒初めての「看取り介護」につながった。認知症や接遇の研修⇒×未実施

(3) 外部研修⇒△少ない。①認知症（掛川市主催） ②身体拘束廃止（掛川市主催）

③日常生活（静岡県認知症高齢者グループホーム連絡協議会主催）に参加

(4) 防災訓練⇒○計画通り6月、11月、12月、2月実施。11月…地域の方が参加、12月…スタッフが地域の訓練参加。

【利用状況一覧】について （定員9名×2ユニット=18名）

ほぼ安定的に定員が充足された結果、平均利用数17.8名で、予算収入を達成できた。

1、園の運営について

令和元年度も、「こころも からだも げんきな子」を育てていくように、保育士や園全体の質の向上に努めながら、子ども1人ひとりを大事にした保育を行った。

令和3年度開園の認定こども園については、12月末にほぼ土地の購入が済み、ソフト面についての検討や整備を進めている。

2、目標・目標達成の取り組み・評価と課題

令和元年度は様々な「言葉」を大事に取り組んだが、園内研修で学ぶことで、保育士が子どもをよく見て、応答的に丁寧に関わることができるようになってきたり、読み聞かせを大事にすることで、子どもたちが自ら絵本コーナーに来て、気に入った絵本を選んで読む姿が増えてくるなどの成果がみられる。

しかし、職員体制を整えることができず、保育士同士が、保育の振り返りをしたり、様々な事柄について話し合ったり語り合ったりすることができる機会や場を、なかなか作る事ができなかったことが次年度の課題である。

3、クラス編成

令和2年3月31日

クラス	年 齢	男 児	女 児	計	担 任
ひよこ	0歳	3	2	5	保育士 2名
うさぎ	1歳	6	6	12	保育士 2名
りす	2歳	9	5	14	保育士 3名
ぱんだ	3歳	6	14	20	保育士 2名
きりん	4歳	9	11	20	保育士 1名
らいおん	5歳	8	14	22	保育士 1名
合 計	園児	41	52	93	

4、地域との交流

近隣の幼稚園・小学校・中学校・高校・地域の方々と交流をし、様々な方と触れ合ったり、園の事を知っていただいたり、子どもたちの姿をみていただくことができた。

5、火災・地震・消火訓練及び不審者対応訓練実施報告

目 的	① 火災の恐ろしさについて、各年齢に応じた安全教育を行い、速やかに避難することの必要性を知らせる。
	② 計画的・継続的に訓練を行うことにより、基本的能力が身につくようにする。
	③ 全職員が緊急の場合に的確な対応ができるように防災知識を深め、実際に訓練で体得する。

6、研修

内部研修では、「子どもの姿を深く読みとる目を培う」研修を行った。研修を進める中で、保育士が子どもをよく見ることができるようになってきており、研修での学びが保育に活かされてきている。引き続き研修を行いながら、保護者にきちんと子どものすがたを伝えられるようにしていきたい。

令和元年度 事業報告

【おおぶち保育園】

1、園の運営について

- ①自分で考え、自分で行動できる子どもに育てて欲しいという願いのもと、保育を進めた。
- ②年度途中の職員採用により、例年並みの受入数を維持し、収入を得ることができた。
- ③10月より2号認定の3・4・5歳児子どもの保育料が無償化となり、食材費（主食・副食費）が実費となった事で園での徴収が必要となった。

2、目標・目標達成の取り組み・評価と課題

- ①本年度は親子の愛着関係を深める保育環境を整備したことで、親子でふれあう大切さを伝えることができた。今後も継続して保護者の意識を高める工夫をしていきたい。
- ②園庭整備では、魅力ある環境を作る努力により、子ども達の遊びに変化が見られた。園庭が豊かな育ちの場になった。

3、クラス編成

令和2年3月31日

クラス	年 齢	男 児	女 児	計	担 任
みかん	0歳	6	3	9	保育士 3名
もも	1歳	7	11	18	保育士 3名
いちご	2歳	11	7	18	保育士 3名
めろん	3歳	6	13	19	保育士 1名
ばなな	4歳	7	11	18	保育士 1名
ぶどう	5歳	13	13	26	保育士 1名
合 計	園児	50	58	108	

4、地域との交流

小規模保育・幼稚園・小学校・中学校・高校・草笛・シニアクラブ・大須賀苑・あおばケア・ふれあい農園など地域の方々と交流し、様々な方との出会い、ふれあいの中で豊かな心を育むことができた。

5、火災・地震・消火訓練及び不審者対応訓練実施報告

目 的	① 園児の安全確保
	② 職員の危機管理意識と責任・自覚を持ち、適切な判断のもと迅速な行動をとる

6、研修

内部研修では、乳児園庭を中心に整備したことで、春夏秋冬の草花遊びなど子どもの遊びに広がりが見られた。その空間でしかできないかけがえのない遊びを体験できるようになった。また保育士が主体的に取り組むという向上心に繋がった。今後も必要な環境は何かを研修し、子どもと保育士の双方が育っていく研修をしていきたい。

7、一時預かり事業

地域の子育て支援として需要はあるが、保育士不足により行き届かない現状である。

時期	年間利用料	理由
8月～10月	9,800円	私的

8、支援センター 事業内容

例年並みの事業を実施することができた。

少子化の影響、3歳未満児の保育園入所率の上昇により、登録者が年々減少傾向にある。

(登録人数：95組)

しかしながら、相談業務は127件あり、地域における子育て支援の役割を担っている。

睡眠・発達・食事・排泄・保育園入園など、多種多様の相談を受け、保護者に寄り添う柔軟な対応を行っている。今後もより一層の機能充実を図り、使用者の要望に応えていきたい。

